

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

②施設・事業所情報

名称：コンビプラザ橋本保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：施設長 樋口 悦子	定員（利用人数）： 50名
所在地：〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-2-15オラリオンサイト共用棟1階	
TEL：042-770-7038	ホームページ： https://www.combiwith.co.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2015年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：コンビウィズ株式会社	
職員数	常勤職員： 14名 非常勤職員： 8名
専門職員	保育士 15名 栄養士 4名
	看護師 1名
施設・設備 の概要	（居室数） 保育室3
	（設備等） 沐浴室1・調理室1 子どもトイレ1・調乳室1 事務室1・休憩室1

③理念・基本方針

弊社の理念

1.豊かで夢のある生活文化を創造し、人々の暖かいふれあいの場を世界に広げます。
2.縁ある人々を大切にし、その幸せを実現します。そして「赤ちゃんを育てることが楽しく幸せだと思える社会」をビジョンとし、保育園が子ども、保護者にとってもう一つのおうちであるようぬくもりのある保育を目指している。

保育方針

- ①子どもの健やかな成長を支援します。（家庭的で落ち着いた保育・豊かな心を育てる保育・社会性を育む保育）
- ②保護者の子育てと就労を支援し、ライフワークバランスが図られるようにします。（多様性と柔軟な保育サービスの提供）
- ③園で培った専門的な知識や技術を生かして地域の子育て家庭の支援をします。（保育室の解放・相談活動）
- ④保育の質を高めるために、職員の専門性を高める支援をしていきます。（園内外の研修参加、自己評価の実施）

④施設・事業所の特徴的な取組

定員50名の規模としては小さい保育園である。少人数だからこそできることを模索しつつ日々保育している。弊社の掲げる「もう一つのおうち」を基本に子ども、保護者ともに安心できる保育園であるように努めている。安心できる環境の中で子ども一人ひとりが好きなことを見つける、やりたいを増やすを丁寧に関わることで自信となり、自己肯定感につなげている保育を展開している。近隣の橋本公園は自然にも恵まれ草花、昆虫探し、どんぐりや紅葉した葉の収集など図鑑で調べる機会にも恵まれている。できる限り戸外活動を多く取り入れている。「絵本」は貸し出し用も含めたくさん用意している。「心育て」を身につけていく過程の中で、絵本との触れ合いをととても大切に捉え、読み聞かせはもちろんの事、子ども自身が物語の中に入れることを大切にしている。日々の保育の中で、0歳児から5歳児まで年齢に応じて絵本を読むことに力を入れて取り組んでいる。また、食育ではコロナ対策を行いながら、調理保育のみならず、食楽しむ、食材を知る、触れることを基本ベースに食べることの大切さを伝えている。職員の自己啓発を目的とし、園内研修では看護師を中心とする保健PJ、栄養士主体の食育について学ぶ機会を2021年度は積極的に設けた。それぞれが身近なテーマで学ぶことの大切さを感じることができている。防災防犯についても子どもと一緒に考えることも大切にしつつ、職員同士があらゆる場面でも対応できるように訓練の中で工夫している。子どものみならず、職員もやりたいことを見つける機会を多く作るようにしている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年10月1日（契約日）～ 2022年4月4日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2018年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

人権擁護のセルフチェックを行い、園全体で有効に機能できるように取り組んでいる
子どもを尊重した保育については、法人の理念を念頭に、クラス会議などで具体的な話をするように努めており、職員一人ひとりへの意識付けができるようにしている。定期的に人権擁護のセルフチェックも実施しており、チェック後は個々の面談と全体への発信を行うなど具体的に対応することで、園全体で有効に機能するように取り組んでいる。また、職員同士が注意しあえる風通しの良い環境であることから、保育の見直しなどへの対応も速やかに行うことができている。

保育の質の向上にむけて、意欲的にリーダーシップを発揮している

施設長は職員との定期的な面談や、会議において保育の質の向上について具体的に職員に伝えるようにしている。園の方針や子どもに育て欲しい姿について、また、より良い保育のためのドキュメンテーションなどへの取り組みについてなど、できる限り職員の思いを汲み取りつつ、子どもたちにとって何をすべきかを具体的に説明し、保育の質の向上に向けてリーダーシップを発揮している。

食育について栄養士・保育士が積極的に連携し進めている

日常の給食のみならず、調理保育、食材、植栽、マナーなど様々な部分から食の大切さを伝えている。

植栽活動では、キュウリ、オクラなど夏野菜の栽培、ジャガイモ作り、パケツ稲作りなど、クラスごとに水やりから収穫までを体験し、身近な食材から積極的に興味を持てるよう事前学習を含めて取り組んでいる。食材を見せたり、食育ボードも活用して食材を学べるようにしたり、アクリル越しに給食室を見ることも出来る環境では、においを感じて食事への意欲にもつながっている。また、食育の様子やレシピを給食だよりやドキュメンテーションで伝え、家庭と連携し継続した取り組みになるように進めている。

◇改善を求められる点

園としての中長期計画を作成し、職員や保護者と共有し実現に向けた取り組みが期待される

法人としての中長期計画は策定されているが、園としての中長期計画の作成は現在のところ行われていない。施設長として持っている中長期的なイメージを計画として明示することが必要であり、職員や保護者と共有して、園の目指す方向を実現できるような取り組みが期待される。

子どもの運動能力向上を目指している

天気の良い日は散歩に出かけ、近隣の公園でできる限り体を使って遊べるように活動内容の工夫を行っているが、コロナ禍においては距離のある公園まで出かける機会や歩く距離が少なくなっていることを認識しており課題であると考えている。室内、戸外ともにさらに体を十分に動かして遊ぶことができるような活動内容の工夫については職員間でも検討しており、子どもたちの運動能力の向上を目指している。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の受審を通して、保育内容、環境整備、感染症対策などの見直しまた、保育の質の向上についても保育園としてさらに考えるようになりました。

現状に満足することなく、もっとできることはないかと考え、子ども達に寄り添うことの本当の意味、自己肯定感を育てるために大切にすべき事等保育について話し合う時間が増えました。職員一人ひとりの保育への向き合い方も少し変化が見られるように思います。

受審の際には、貴重なご意見をいただき、保育また運営のヒントとなりました。保護者アンケートは率直な意見が多く、すぐの改善に向けて取り組むことができています。

保育は奥深く、また柔軟でなければならないこと改めて気付くことができる受審となりました。今後も安心できる場所であり、信頼される保育園を目指していこうと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり